

新学習
指導要領スタート!

理科

小学校の先生への メッセージ

「知らないことがある」
それに気づくって
楽しい!

子どもたちだったら
どんなことを考えるかな
を授業づくりの原点に!

鳴川 最近ブラックホールの写真が撮影されたことが話題になりました。ブラックホールという言葉は、多くの人が知っていると思うのですが、撮影されたのは初めてなんです。このように、科学の世界では、まだまだ知られていないことばかりなんです。小学校の理科においても、子どもは不思議に思うこと、疑問に思うことをたくさん表出してくれるでしょう。理科の学習の範囲外のことについても。そのようなときに、子どもに正しい知識を伝えなければいけないと思ってしまうと、“私は理科についての専門知識がないから、理科は苦手です”と思ってしまうのです。そんなときは、子どもと一緒に“そうだね。不思議だね”と思えばいいのではないのでしょうか。子どもたちの考えは、私たちを超えていきます。子どもに学ぼうとする姿勢が大切ではないのでしょうか。



富田 理科の授業の面白さは、子どもたちが自然現象をどう見ているか、どのような生活経験をしているか、ということが表れるところです。明るい時間に月は見えないと思っている子、学校帰りに白い月らしいものを見たことがある子、お風呂の天井の水滴に気付いた子、なぜそのような現象

が起こるか調べた子もいれば、そんなことを考えたこともなかったと授業で初めて気付く子もいます。

今まで同じ授業を受けてきても、一人ひとりの学び方は違って、生活経験こそ様々です。

その様相を聞いて話題にし、共有する。子どもたちの生活や考えに触

れながら話をするのは、とても楽しい時間です。

自然現象の一つをとっても、子どもによる解釈は、初めは“ばらばら”です。このばらばらだったものがつながり、結び付いていき、一つのきまりが見えていくのが理科の授業です。

「見方・考え方」という言葉で、新しい学習指導要領は整理されました。それをきっかけにして、私は子どもたちの見ている世界、考えていることがもっと知りたいなと思いました。

教師である私たちが見せたい世界や考えさせたいことをもっていることは、もちろん大切です。しかし何か教える前に、子どもがどんなことを思っているか聞いてみてください。そして一緒になって考えてみてください。



私が子どもから学んだこと



3年生で昆虫の定義について学習をしているときに、Sさんが、「じゃあ、カマキリは昆虫じゃないね。」と言ったことから、昆虫のあしに対する興味が深まりました。